

### 【投稿規程】

『早稲田大学 日本古典籍研究所年報』第一七号掲載の原稿を左記要領にて募集します。

・**投稿資格** 本研究所の研究員・招聘研究員または本研究所の活動に理解を有する者。

・**内容** 平安時代以前を中心とする日本古典籍およびその関連諸分野に関する研究論文・資料紹介・研究ノート・エッセイなど。

・**分量** 四百字詰換算で一〇〇〜三〇〇枚程度。図版・写真の掲載は要問合。

なるべく電子ファイルとともに投稿のこと。**締切り** 二〇二三年二月二〇日（必着）。

・**送り先** 〒162-8644

東京都新宿区戸山一―二四―一

早稲田大学文学学術院二五〇三研究室内

日本古典籍研究所 年報編集係

E-mail hisoi@waseda.jp

二〇二四年四月中旬発行予定です。原稿の採否は編集係にご一任ください。なお、本誌は、今号（第一六号）より、早稲田大学リポジトリにてWeb公開を始めます。今後、投稿にあたっては、あらかじめその旨をご了承ください。

### 【彙報】

\***定例研究会** 二〇二二年度も、日本宗教文化研究所との共催で開催。詳細は、本誌六七頁に。

\***国際ワークショップ「東アジア古典研究のグローバル化を目指して―言語と文化の翻訳論―」**  
スーパードグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点が主催した国際ワークショップに、本研究所も、MIT, School of Humanities, Arts, and Social Sciences, Literature (MIT 文学部)、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所とともに共催機関として名を連ねた。『日本「文」学史「文」から「文学」へ東アジアの文学を見直す』（勉誠出版、二〇一九年）の中国語訳、韓国語訳、英語訳出版プロジェクトを視野に、東アジア古典研究における専門用語術語の翻訳の問題、グロスサリー用語集作成の可能性について報告とディスカッションを行った。

【開催日】二〇二二年三月二二日（土）

【形式】オンライン開催（但し、早稲田大学学内者是一部対面で参加）

趣旨説明 Wiebke Denecke（マサチューセッツ工科大学）・河野貴美子（早稲田大学）

【報告者】楽曲（早稲田大学（院））・魯耀翰（高麗大学校）・馮辰チエン（早稲田大学（院））

【コメント】雋雪艶（清華大学）・宋好彬（高麗大  
学校）・Matthew Fraleigh（ブランダイス大学）

\***マシュー・フレイリー先生講演会「戦後日本の漢詩雑誌：『雅友』を中心に」**  
スーパードグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点が主催した国際ワークショップに、本研究所も、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所とともに共催機関として名を連ねた。

マシュー・フレイリー先生（ランディス大学）の講演会。Zoomミーティング併用によるハイフレックス方式で開催。

【開催日】二〇二二年一月八日（火）

【会場】早稲田大学三三三号館第一会議室

\***中日古典学ワークショップ** 北京大学中国古典学の研究者グループとの共同企画。統一テーマとして「中日古典学の交流と融合」を掲げ、今回の小テーマ「典籍文献研究（中日類書、類聚、事典、爾雅類典籍）」をめぐる研究報告と討議。主催・本研究所、スーパードグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点および北京大学人文学部、北京大学中国語言文学系  
共催・早稲田大学総合人文科学研究センター角

田柳作記念国際日本学研究所、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）20K00303）「グローバルな視野からみる和漢の「文」と日本古典籍をめぐる学術文化史研究」

【開催日】二〇二二年一月二日・三日

【会場】早稲田大学戸山キャンパス（Zoom利用）  
一日目（一月二日・土）

開会挨拶・河野貴美子・杜曉勤

第1組・類書と経史文献

司会・討論・河野貴美子・杜曉勤

顧永新「《永樂大典》稱引《易》學文獻與《周易傳義大全》異同論―也論元明時期經學文獻兩大主幹系統的消長」

程蘇東「穗久邇文庫藏《五行大義》紙背注所見

《太平御覽》引文考」

川尻秋生「日本古代の史書・法制書と「類聚」

田中史生「『類聚国史』の風俗部・殊俗部と対外認識」

第2組・辞書と注釈

司会・討論・吉原浩人・顧永新

胡敕瑞「关于汉译佛典音译词的讨论―以慧琳

《一切经音义》为例」

高松寿夫「智光『浄名玄論略述』の注釈言説」

李林芳「原本《玉篇》殘卷的釋義與書證的類型

和特點―兼論原本《玉篇》的性質」

孫玉文「清代以来《尔雅》注釋中通假字认定问题例商」

第3組・類書・辞書の編纂、出版

司会・討論・高松寿夫・胡敕瑞

笹原宏之「平安時代の漢字辞典における引用書と日本製漢字・日本製字義―『新撰字鏡』『和名類聚抄』の典拠を中心に―」

張学謙「《初學記》版本雜識」

河野貴美子「鎌倉期成立の金言成句集にみる

「知」―『明文抄』を例として―」

劉玉才「《幼學指南抄》徵引漢籍文獻史源考察」

第4組・日本における類書の受容

司会・田中史生・孫玉文

杜曉勤「中国类书的东传及其对奈良、平安朝文学创作之影响」

吉原浩人「慶滋保胤の『白氏六帖』受容」

程夢稷「拟效、挪用与回应―从近世日用类书看

“山海经图”在江户日本的流行」

総合討論（自由討論）

司会・河野貴美子・杜曉勤

二日目（一月三日・日）

青年論壇

第一組・類書と文学

司会・討論・長谷川隆一・高樹偉

伊丹「『蒙求和歌』における「董奉活燹」について―類書『類林』『珊瑚集』との関係などを中心に―」

王佳琪「《白氏六帖事类集》与白居易文学创作之关联」

田雨鑫「论《艺文类聚》《初学记》对诗体作品的删削改造」

崔鵬偉「百鬼夜行日解の再検討―『拾芥抄』を手がかりに―」

第二組・類書と語学、注釈

司会・討論・崔鵬偉、王佳琪

楊思思「音义与小学・晋宋之际文学变革的语言路径」

山本早紀「音楽分野における「節」の字義と漢語」

鄧子翔「《永樂大典》引《莊子》文本校理―兼論日鈔本系統《莊子注疏》的文本價值」

王孫涵之「『詩義疏』考―『毛詩草木鳥獸虫魚疏』との關係を中心として」

第三組・類書の編纂、出版

司会・討論・王孫涵之、楊思思

大谷方由子「『本朝月令』と『礼記』月令篇」

長谷川隆一「『群書治要』の選集意図と具体的

事例の検討―序文と『群書治要』引『潜夫論』を中心として―

高樹偉 「《永樂大典》纂修芻議」

張鶴天「和刻本《新編古今事類全書》編刻考略」

コメント・程蘇東・田中史生

総括、閉幕式

総括・劉玉才・高松寿夫

**\*国際ワークショップ「宋代の仏教信仰と日中文化交流」**早稲田大学スーパーグローバル大学創成支援事業「国際日本学拠点」、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、寧波大学浙東文化研究院、寧波大学人文学与伝媒学院が主催するワークショップに、本研究も早稲田大学奈良文化研究所とともに共催として連名。

【開催日】二月二日（木）

【形式】オンライン開催（但し、早稲田大学・寧波大学内者は一部対面で参加）

【報告】

司会：川尻秋生（早稲田大学文学学術院教授・奈良文化研究所長）

尚永琪（寧波大学仏教文化センター主任）「優填王

梅檀瑞像の造像の漂流について」

龔纓晏（寧波大学浙東文化研究院首席專家）「惠暎、

紹曇と「輿地図」

田中史生「早稲田大学文学学術院教授」「薩摩塔の

信仰の背景を探る―薩摩塔と中国石塔の銘文

の検討から―

【各報告へのコメント（大学院生）と質疑】

司会：王海燕（浙江大学歴史学院教授・寧波大学浙東文化研究院学術委員）

【全体討論】

司会：河野貴美子

**\*国際ワークショップ「第二回 東アジア古典研究のグローバル化を目指して―言語と文化の翻訳論―」**スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点とともに本研究が主催した国際ワークショップ。共催はMIT, School of Humanities, Arts, and Social Sciences, Literature (MIT 文学部)、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所。二〇二二年三月に開催したワークショップの二回目。

【開催日】二〇二三年三月一日（水）

【会場】早稲田大学戸山キャンパス三三三号館二二三教室

趣旨説明 Wiebke Denecke（マサチューセッツ

工科大学）・河野貴美子（早稲田大学）

【報告者】徐夢周・曾堰杰・魯耀翰・沈慶昊・楊沅錫・樂曲・蔣義喬・Wiebke Denecke

【ディスカッション】

**\*ワークショップ「地域モデルとしての漢字文化圏人文学の未来の風景を創造する：研究コミュニティとプラットフォーム構築にむけて」**スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点とともに本研究が主催したワークショップ。共催はMIT, School of Humanities, Arts, and Social Sciences, Literature (MIT 文学部)、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）20K00303）。

【開催日】二〇二三年三月二日（木）

【会場】早稲田大学戸山キャンパス三三九号館第五会議室

【登壇者】Wiebke Denecke・河野貴美子・陣野英則・Michel Watson・緑川真知子・魯耀翰・山藤夏郎・沈慶昊・田中史生・山本聡美・山本嘉孝・楊沅錫

## 訃報

敝紹邊先生 二〇二二年八月六日逝去。八二歳。北京大学教授。本研究所以来、招聘研究员としてご参画いただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新川登亀男先生 二〇二三年二月一〇日逝去。七五歳。早稲田大学名誉教授。本研究所以来の研究所員であり、定年でご退職後は、本研究所顧問でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本誌は、JSPS科研費(基盤研究(C)20K00303)による研究成果の一部である。

## 〔編集後記〕

○年報第一六号をお送りする○編集作業が大  
幅に遅れ、刊行が遅くなったことを心よりお詫  
び申し上げます○刊行の遅滞は、ひとえに編集子  
の怠惰に因るところで、面目ありません○内容  
は論文・資料紹介・注釈と、多彩で充実したも  
のとなることができた○〔投稿規定〕にも記し  
たとおり、本誌は、今号より、早稲田大学リポ  
ジトリに掲載し、Web公開することとなった  
○インターネットに接続されていれば、世界中  
どこからでもアクセス可能な状態となるので、  
どうぞご利用ください○バックナンバーも  
追々リポジトリに掲載の予定です○定例研究  
会(四月・七月・九月・十一月・一月・三月の六回開催予定  
も引き続き開催される。発表担当者を随時募集  
中○次号にも奮ってご投稿を賜りたい(T)

早稲田  
大学 日本古典籍研究所年報 第一六号  
印刷 二〇二三年一〇月二〇日  
発行 二〇二三年一〇月二一日  
編集者 早稲田大学総合研究機構  
日本古典籍研究所  
〒162-8644 東京都新宿区戸山一―二四―一  
二五〇三(河野貴美子) 研究室室内  
kotenseki@list.waseda.jp